

## 平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	卒業研究(Graduation Thesis)		授業コード	C109919
担当教員名	吉村 充功		科目ナンバリングコード	L41206
配当学年	4	開講期	通年	
必修・選択区分	必修	単位数	6	
履修上の注意または履修条件	本科目の実施日程等は、選択した研究室により異なりますので、担当教員の指導を受けて下さい。			
受講心得	選択した研究室の担当教員の指導を受けて下さい。			
教科書	(なし)			
参考文献及び指定図書	選択した研究室の担当教員の指導を受けて下さい。			
関連科目	全専門教育科目			

授業の目的	卒業研究着手条件を満足した4年生は、研究室を決定した後、卒業研究に着手します。本科目では、各研究室の卒業研究生となった学生各人が、大学専門教育の総仕上げとして専門分野における研究テーマに挑戦し、1年間かけて取り組んだ成果を卒業論文としてまとめ、提出します。研究テーマは、選択した各専門分野において、技術上の問題の解明、予測、対策及び新しい方法の提案・開発等です。卒業研究では、各自の研究テーマに対して問題点を発見する力、実験・調査・分析などの手法、論文のとりまとめ方、プレゼンテーション能力を身につけ、卒業後、社会人あるいは大学院生として活躍できるようになることを目標とします。
授業の概要	本科目の授業は、選択した研究室の担当教員の指導のもとで行われます。研究の内容は、実験、実習、調査、計画、計算及び設計と多岐にわたります。研究テーマは担当教員の指導により決定されます。また、研究の進め方は研究テーマの内容により個人研究またはグループ研究として行われます。卒業研究生は、与えられた研究テーマに関して、担当教員の指導のもとに研究の実実施計画を立てて実行しては検討を繰り返し、1年間かけて目標とした研究成果の達成に努めます。最終的には研究成果を論文にまとめて担当教員に提出し、審査を受けます。審査は口頭発表及び試問等により行われます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：ゼミ活動(1)</b> 昨年度の「研究ゼミナール」に引き続き、佐賀県地区もしくは豊後大野市大野町土師地区の活性化に関する研究及び実践活動を行います。佐賀県では高齢化及び少子化が急速に進み、中心部である「関あじ関さば通り」の活気が急速に失われています。また、大野町土師地区は農林業が盛んな地域ですが、超高齢化しており、集落の維持が大変難しくなっています。本研究では、各種統計データや現地調査の分析を踏まえて地域の活性化を行うための具体的な提案を行います。また、地元のNPO、商店等と協力して、地域実践活動を行います。これら通じてコミュニケーション力や主体性、課題解決力といった人間力を高めるとともに、卒業研究論文としてまとめます。卒業研究論文のテーマは、大分県内における交通問題、都市計画、地域づくりに関する課題などで実施することも可能です。 授業は通年で実施しますので、後期も前期と同様のスケジュールで進みます。	ゼミ活動の予習・復習が必要です。
<b>第2週：ゼミ活動(2)</b>	ゼミ活動の予習・復習が必要です。
<b>第3週：ゼミ活動(3)</b>	ゼミ活動の予習・復習が必要です。
<b>第4週：ゼミ活動(4)</b>	ゼミ活動の予習・復習が必要です。

第5週：ゼミ活動(5)	ゼミ活動の予習・復習が必要です。
第6週：ゼミ活動(6)	ゼミ活動の予習・復習が必要です。
第7週：ゼミ活動(7)	ゼミ活動の予習・復習が必要です。
第8週：ゼミ活動(8)	ゼミ活動の予習・復習が必要です。
第9週：ゼミ活動(9)	ゼミ活動の予習・復習が必要です。
第10週：ゼミ活動(10)	ゼミ活動の予習・復習が必要です。
第11週：ゼミ活動(11)	ゼミ活動の予習・復習が必要です。
第12週：ゼミ活動(12)	ゼミ活動の予習・復習が必要です。
第13週：ゼミ活動(13)	ゼミ活動の予習・復習が必要です。
第14週：ゼミ活動(14)	ゼミ活動の予習・復習が必要です。
第15週：ゼミ活動(15)	ゼミ活動の予習・復習が必要です。
第16週：	
授業の運営方法	(1) 授業の形式 「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式 「複数クラス方式」
	(3) アクティブ・ラーニング 「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー I :ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目
備考	

○単位を修得するために達成すべき到達目標

【関心・意欲・態度】	① 自分の専門分野をもち、問題意識と探究心を抱くことができる。
【知識・理解】	② 各専門分野における主な既往の研究について把握できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	③ 研究成果を第三者に対し分かりやすく発表することができる。
【思考・判断・創造】	④ 研究の目的に即した調査方法と分析方法を自ら学び、実行することができる。 ⑤ 研究計画を立案し、それに即した研究を締め切りまでにまとめ上げることができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点		
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		10点		
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点	20点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		50点		
<b>(「人間力」について)</b>				
<p>※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	<p>普段の取り組みによるレポートを評価します。 卒業研究論文により評価します。</p> <p>[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。</p>
発表・その他 (無形成果)	卒業研究発表会の口頭発表を評価します。